

2007年(平成19年)7月29日 日曜日

人と自然の共生
3日連続で学ぶ

京大芦生研究林で

京大フィールド科学
教育研究センターの「公
開講座2007」最終日
が二十八日、南丹市美山
町芦生の同センター芦生
研究林(芝正己林長)で
開かれた。全国から三十
人が受講、野生動物によ
る食害をめぐる講義で、
二十六日から始まった三
日間の講座を締めくくっ
た。

十七回目を迎えた今講
座は「森のしくみとそ
の役割」がテーマ。初日
は、同研究林の概要解説
や、樹木の一生と森林の
動態などの講義があつ
た。二日目は研究林に入
り、植生観察をした。

最終日の講義では近
年、農山村で大きな問題
になっているシカやクマ
の食害について、高柳敦
・京大農学部講師が各
種データを示しながら話
した。「野生動物の個体
数にしても、自然界の中
でどの状態が正しいとい
えるのか」と問題提起。
また「二十世紀までは、
自然はすなわち資源だっ
た。今後は(それを)利
用するだけではいけない
時代」と指摘した。
受講者から質問も出
て、人と自然の共生への
関心の高さを示した。
(井上年央)